

温湿度計による室温の可視化とエアコンの利用促進について

現状と課題

1 現状と課題（令和4年度）

- ・ 熱中症による救急搬送者数全国第2位
- ・ 救急搬送死亡者数が全国第1位
（死亡者9名のうち8名は**高齢者**）

⇒ 主にエアコンを使用していないことによるもの

2 先行研究にみる高齢者の特性と対応する取組

(1) 埼玉県環境科学国際センター（令和4年度）

高齢者の寝室において、温湿度観測と暑さの感じ方のアンケート調査を実施。「エアコンを使用する習慣があっても、使い方によっては危険な室温となっている日がある」、「暑いと実感していてもエアコンの使用を制限、または使用しない人がいる」ことが明らかになった。

(2) 大阪府吹田市（令和4年度）

高齢者を対象に、寝室に温湿度計を設置することで夜間における適切なエアコンの利用につながるかを調査した。エアコンを利用している人においては、より適正な利用につながることを示された。

- ⑩ 暑いと実感してもエアコンの使用を制限する人がいる。
- ⑩ 室温計は、エアコンを利用する習慣がある人には、適切な利用を促すことが示されたが、そもそも利用する習慣がない人に対する効果は明らかになっていない。

「熱中症に関する知識」と「室温計を設置する環境」を整えることにより、夜間の適切なエアコンの利用につながるか？

モデル事業として実施したい内容

【項目】

高齢者を対象とした熱中症予防行動の効果的な情報発信に関すること

【目的】

主に夜間、高齢者の適切なエアコン利用につながる取組について検証する。

【具体的な方法】

高齢者を3群に分けて、働きかけの効果を検証する。【150名（50名×3群）】

〈群分け〉

- ・ A、B群には、熱中症予防のためにエアコンの適切な使用についてリーフレットを配付
- ・ A群：エアコンの使用記録のみをつける（可能な範囲で口頭による説明）
- ・ B群：温湿度計を寝室に設置。記録をつける（可能な範囲で口頭による説明）
- ・ C群：集合による健康教育（内容：エアコンの適切な使用、熱中症を予防する食事等）
温湿度計を寝室に設置。記録をつける（口頭で説明）
記録期間の途中で、一度、はがきにて勧奨の通知をする。

〈スケジュール〉

令和5年4月～6月

市町村への依頼、対象者の選定

栄養士会（共同実施者）との打ち合わせ

7月はじめ

各群へ必要な依頼。C群については健康教育の実施

7月中下旬（1週間）

3群とも、通常どおりにエアコンを使用し、記録をつける

7月下旬～8月上旬（3週間）

B群、C群は室温計を置いて、記録をつける

効果の指標

- ・ 夜間、適切にエアコンを利用した者の割合の増加
- ・ 健康教育有無別の熱中症予防行動につながる者の割合の増加